



アバン仙台 Jr. Youth News 2017年 12月号

第38回

"この日のために" 獲ったぞ1部昇格!!

○ アバンツァーレ 1 VS 1 多賀城FC
得点者: 佐藤 里央 (PK ア 6 : 5 多)



闘志あふれるGK



昇格戦では、1対1も止められて、PK戦では、シュートを止めることができ良かったです。

でも、昇格戦の1点目の1対1の場面をもっと止められたし、キーパーとして、バントキックでしっかりアシストできるようにすれば良かった。

PK戦では、6本中5本反応したのに、1本しか止められませんでした。

昇格戦に勝ったのはとても嬉しいけど、自分にとっての新たな課題が出来たので、その課題を直してもっと上手くなっていきたいです。

水野心温 (みずの しおん)

推進力のあるドリブラー



昇格戦でゴールを決めることができ、勝つこともできて嬉しかったです。

正直、試合内容はそこまで良くなかったけれど、なんとか勝ったことについてはホッとしています。

今まで応援してくれた方に、少しは恩返しができただかなと思います。

2年生・1年生、今のところ少し心配もありますが、来年は残留できるように頑張ってもらいたいです。

佐藤里央 (さとう りょう)

昨年度 卒業生からコメント



応援兼ねて昇格戦前に胸をかしてくれた
高橋たくみ・甲田あゆと・小室きょうへい

アバン7期生の甲田亜佑人、高橋拓実、小室匡平です。昇格戦お疲れ様でした。そしておめでとうございます。

2年間いっしょに活動し、個性的な選手が多く、頼もしい後輩たちだったので勝ってくれと信じていました。

自分たちの代でM2に降格してしまい、情けなく思うなかでM1昇格を決めてくれて、正直ホッとしました。そして、今の三年生にM1で戦わせてあげられなかったことは、本当に申し訳ないです。

次は受験が待っていますが、勉強もサッカーに負けないうくらい頑張ってください！ちなみに、リフティングなど少しでもボールに触ると、リフレッシュにもなるし、感覚も鈍りにくいのでおすすめです(笑)。応援しています。

勝負には良いときも、悪いときもある。でも、悪い時こそ下を向かず前を向く、背中を押す仲間もいる。一歩前に進むことを恐れず、挑戦することをあきらめなければ、素晴らしい経験となる。それが実感できる試合になってよかったですね。この経験を高校やその後も活かして頑張りましょう。

先制点はエース!

失点後 ここから勝負

見せた勝負強さ!

6本目を止めた場面。抜群の反応

失点の責任を抱え臨んだPK戦。6本中5本、見事反応し、最後の6本目で止めて見せてくれました。右写真、心温くんが集まる選手たち。この場面は、チームの雰囲気象徴します。グッときました。



MJ1部昇格選考試合【結果と戦評】～学んだこと～

MJ1部昇格です。皆で励み合い、活動してきたからこそその結果です。おめでとう。そして、サポートいただいた保護者みなさん、そしてジュニア選手、OBみなさん、本当にご声援ありがとうございました。

試合は序盤、多賀城の勢いになかなか波に乗れません。その中、眞輝斗くんのシュートから少しずつ攻勢。選手間が少し間延びする内容となりましたが、要所で選手が連携する攻撃も見られました。(まだまだ、磨けば上手くなります)

そして、多賀城の攻撃を防ぎながら、エース里央くんが先制弾を決め、チームが活気づきます。

ですが、これぞサッカーです。何が起こるかわかりません。気を張っていた中の一瞬の緩み。DF背後に突破され同点弾。痛い失点のようですが、東北大会の時のような雰囲気を感じていたので気持ちは揺らぐず、前向きでした。

相手も必死です。勝つための準備を必死でやってきたと、試合後に相手の中心選手から聞きました。この時期の成長は急激です。プレーの質、精神的な成長をここぞという時にぶつけられるのです。

息をのむ接戦となった試合はPK戦。6人ずつ蹴り合い、GK心温くんが止め、凜くんがゴールを決め、MJ1部昇格を掴みとることができました。ここまでの活動、3年生みなさん、よく頑張りました。

歴代OBからお祝いコメント

MJ1部昇格戦当日、これまでMJ2部リーグでの活動を見守り続けてくれたOBの4期生2人。齋斗真(とうま)くんと、佐藤響(ひびき)くん。昇格を決めた試合についても、「成長」と「試合の質」について見てくれたようです。以下に紹介しますので、先輩の言葉を受け止め活動していきましょう。

～ 齋斗真くんから ～



アバンツァーレジュニアユース4期生の齋斗真です。まずは1部昇格おめでとうございます。今までの積み重ねがあってこそその結果ではないでしょうか。

しかし、試合の中身としては、まだまだ足りない部分が多かったかなと正直思いました。

上から目線になってしまうかもしれませんが、準備が足りなかった選手、いたんじゃないかなと思います。もし、そう感じた選手がいたなら、ぜひ次のステップで活かしてもらいたいと思います。

でも、一番感じたのは、チームとしての成長です。新チームになった頃と比べると、最後の試合はキャプテンを中心にいい声飛び交っていて、いいチームになったなと感じました。来シーズンからは1部リーグで試合できるので、1試合1試合大切に欲しいと思います。

たくさん先輩のおかげで今のジュニアユースがあると思うので、これからの結果だけでなく、次のステップへ進む3年生もアバンの戦士であることに誇りを持ってこれからも一生懸命頑張ってください。

～ 佐藤響くんから ～



今回は、1部昇格おめでとうございます。自分たちの代で1部に昇格したということもあり、その喜びはわかります。

3年間の努力は間違っていなかったと自信を持って言える結果がついてきたのかなと他人ながら思っています。

自分は何回か試合を観る機会がありました。観るたびにプレーの質やゲームの運び方が上手くなっているなと感じました。

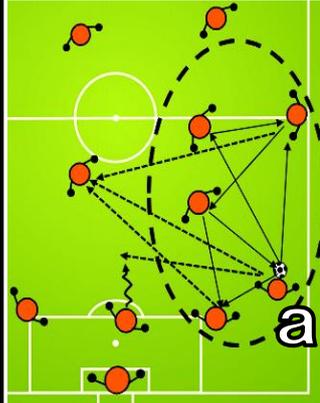
今回の昇格戦、選手が様々なことを感じていることでしょう。今回の試合に出ている選手が良かったから昇格できたかと言えばそうではないと思います。今までの試合でみんながやることをしっかりとやってきて、アバンという1つのチームとして頑張ってきたから昇格できたんだと思います。

アバンを引退後は高校でサッカーを続ける人、またはそうでない人もいるかもしれませんが、ただ、アバンで過ごした3年間はかけがえのないものだと思います。

自分は、アバンではベンチスタートがほぼ毎試合で、1部昇格できて、あまり貢献できなかったとは思っていません。でも、高校3年間サッカーを続け、1年生からスタメンとして使ってもらい、これまで頑張ってきた良かったなと感じました。『努力は報われる』、報われるのが遅いかもしれないけれど、継続することが大事。それは勉強面にも言えることです。

最後に、アバンで学んだことはサッカーだけじゃないと思います。それは様々な面で活かし、それぞれが今後活躍してもらえるといいなと思います。3年間お疲れ様でした。今後は高校受験の準備頑張ってください。

テクニカルレポート



今回は、「ボール保持者から遠い選手の質」。

以前、「3+1」をテーマにあげました。この考え方を現在、スクールや中学生たちに「オフ・ザ・ボール(準備)」の段階で、「試合の状況」や「相手の反応、人数」などを観て判断するところに取り組みんでいます。

中学生たちも選手同士の「距離間」の狭くし、連携のレベルアップに取り組んでいます。その連携を活かす鍵となるのが、「ボール保持者から遠い選手」の存在です。

図 a の選手がボール保持者。点線で囲まれた枠内の選手たちが、ボールサイド(ボールに近い選手たち)。この中で、上手く連携するだけでは、いずれゴールに向かいずらくなり、プレースピードがあがらないことも出てきます。

そこで、枠外にいる「遠くの選手」たちの観察力、ポジショニングとタイミング、身体の向きを使うことが重要です。

この選手たちが機能しないと、「ボールの持ちすぎ」や近い選手だけで「繋ぐだけ」になることも出てきます。

攻撃のやり方を変える判断の一つとして、「遠くの選手」がいるとボールを動かしやすくなります。「よく観て」、試合の流れをコントロールできるとサッカーが面白くなりますよ。

富山コーチの原点

選手の皆さん、コーチがなぜ「取り組み方」、「仲間」の成長にこだわるのか。その原点は中学生の頃にあります。

以前、話したようにコーチの中学校は市内では最下位。新人戦から中学総体まで公式戦はわずか『1勝』。PK戦で勝ち取った勝ち星のみです。

そんな勝てないチームの原因はハッキリしていました。勝てないのに練習しない。やっているだけです。「指導者がいなかった」、これは言い訳です。

敗戦後に「明日から朝練をやるぞうぜ」と言った翌日から実行されることはありません。朝起きるのが辛いから来ないのです。「仲間」のように「言い合う」だけでした。

コーチは「練習」が大好きなので3年間、自主練は欠かしたことはありません。これは自慢であり、誇りです。

敗けることも大嫌いでしたが、勝ちたい気持ちが大きかったし、誰よりも上手くなりたかった。毎日の日課や取り組む姿勢は曲げることはありませんでした。

サッカーへの思いは、昼休みにサッカーする時にも、本気でやるあまり、友達と口論することもありました。

それが原因で浮いた存在となり、部活動やサッカーそのものが面白くなく、部活をやめ町クラブに入ってしまうと思ったこともあります。

でも、日課の朝練には向かうのです。そして気づきます。自分にも素直さがなかったと。自分が求めるのは「戦う仲間」や「勝つために諦めずやろう」ということです。ただ強要せずに、理解してもらうことから始めました。

何かあってもサッカーに戻るのです。仲直りしたのもサッカーです。その後、理解してくれた数人と朝練を一緒にやるようになりました。

結果的に勝てませんでしたが、その仲間たちは社会人リーグ戦にチャレンジしています。サッカーで繋がっています。

チームづくりは自分たちでやると喜びも大きい。自分たちで積極的に活動すると結果にも前向きになれる。今、共にプレーする仲間たちが最高だと思える活動にしていきたいです。

平成30年度 ジュニアユース10期生 練習会「1月」実施

第2回 練習会の日程

【練習会】

●日 時：平成30年1月20日(土) 17時30分～19時30分

●会 場：泉総合運動場(人工芝グラウンド)

※ Facebook やアバン公式ホームページでも、ジュニアユースの活動や試合結果、練習会等の情報を掲載しております。ぜひご覧ください。